

# 『時事直言』 No.1639 2023年11月20日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

## ハマスはテロリストではない(BBC)！

BBC(British Broadcasting Corporation.:英国放送協会)は、私の20年来の友人が今なお活躍しているフランスのル・モンド紙と同じジャーナリズムを遂行する世界で数少ないマス・メディアである。

アメリカや日本の報道機関が御用メディアに成り下がっているのと対照的である。

BBCは10月7日に対イスラエル大規模攻撃をしたハマスをテロリストと呼ばない。

予告なしに5,000発ものミサイルをイスラエルに撃ち込んだハマスが何故テロリストでないのだろうか。

分かり易く言えば、ハマスその他のイスラエルに対するイスラムの戦闘行為は「正当防衛」であることを歴史的かつ客観的に理解しているからである。

イスラエル建国(1948年)から今日までのイスラエルとパレスチナ、そしてアラブとの終わることのない紛争の歴史を創った張本人はイギリスである。

イスラエル建国前のアラブはイギリスの植民地であった。

オスマン帝国を倒して中東全域をイギリスの植民地にしたいイギリスは1915年アラブ(イラク等)に、対トルコ戦でイギリスと共に戦えばアラブ人居住区の独立を認めるというフセイン・マクマホン協定を結んだ。

シオン(エルサレム)にユダ人国家を建国することを目指していたシオニスト(ユダヤ人)がロンドンで爆破テロを繰り返した結果イギリスは1917年11月バルフォア宣言でパレスチナ領内にイスラエル建国を認めざるを得なかった。

一方イギリスはオスマン帝国崩壊後のアラブ分割の密約(サイクス・ピコ)協定をフランスとロシアと交わしていた。

これが有名なイギリスの「三枚舌外交」である。

イギリスはアラブをオスマン帝国と戦わせて、トルコに勝利した後約束を守らないどころかパレスチナの領土にイスラエルの建国を認めた。

イスラムのテロ行為はシオニストのロンドンでの爆破テロを見習ったものであり、シオニストこそがテロの元祖である。

パレスチナ人のイスラエルに対する抵抗には先祖代々住み着いていた村や町をイスラエルの武力で追われ、その占領地に移植したユダヤ人の町が次々と建設され続けている事実が根底にある。

パレスチナ人はどうしたら祖国をイスラエルから取り返すことができるのか。

長い年月をかけやっと1993年オスロ合意(イスラエルはパレスチナ解放機構・PLOを自治政府として認め、双方の武力行使を禁じ、国連が認めた境界線を守る)が成立したが、イスラエルは越境し続け、ヨルダン川西岸に移植を続けた。

パレスチナに残された手段はジハード(生命を犠牲にしても民族の為に戦う)以外になくなったのである。

アメリカ同様シオニストの影響下にあるイギリス政府はハマス等イスラム過激派をテロリストとして認定しているが、イギリスの過去の犯罪的行為の結果がパレスチナ暫定自治機構、ハマス、なかんずく一人一人のパレスチナ人がイスラエルにジハードで立ち向かわざるを得なくしていることを理解している BBCは、イギリス政府の圧力にめげることなく決してハマスをテロリストと呼ばない。

日本のマスコミがBBCに見習うことを願ってやまない。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。